

# 靈宝館だより

題字・畚野光義師

靈宝館だより 第147号

令和6年7月15日発行

和歌山県伊都郡高野町高野山306

公益財団法人高野山文化財保存会

高野山靈宝館

電話0736-56-2029

URL <https://www.reihokan.or.jp>

## 利用案内

開館時間

■5月1日～10月31日

8時30分～17時30分

■11月1日～3月31日

8時30分～17時00分

■休館日 年末年始のみ

(展示替えに伴う臨時休館あり)

拝観料 大人

1300円

高・大学生 800円

小・中学生 600円

高野町に住民票がある方、高野町内の学校に在籍する学生の方は入館無料です。

(住所記載の証明書提示要)

専用駐車場あり



国宝 八大童子立像のうち制多加童子像(金剛童子)

## 第44回大宝藏展 「高野山の名宝」

同時開催企画展

「怖い?知りたい?～地獄・極楽の世界～」

令和6年7月20日(土)  
～10月14日(月・祝)

### 第147号 目次

大宝藏展のご案内	2
収蔵品の紹介116	3
高野山の生き物 第七回	4
特集高野山	5
新指定文化財の紹介	6
高野山靈宝館からのお知らせ	7
	8

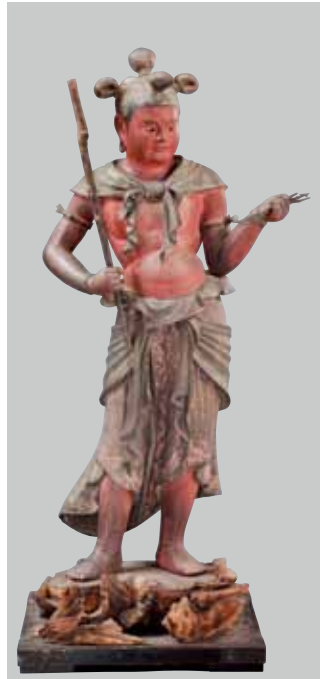
毎月21日(弘法大師の日) ご来館の方にプレゼントを差し上げます。

令和7年4月1日から、通年の開館時間が9時00分から17時00分までとなります。

# 運慶作 国宝 八大童子立像のうち4体 特別公開!!



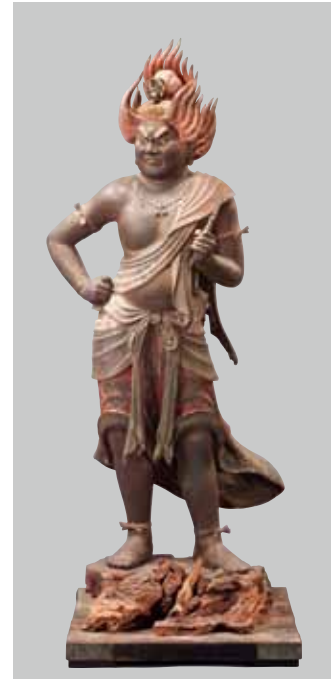
恵光童子像 金剛峯寺



制多加童子像 金剛峯寺



矜羯羅童子像 金剛峯寺



烏俱婆識童子像 金剛峯寺



今回の大宝蔵展は、世界遺産登録20周年を記念して、運慶作 国宝 八大童子立像4体を3年ぶりに展示します。普段みることができない八大童子たちに会いに来ませんか？あわせて高野山の貴重な名宝を多数展示します。

企画展では、お盆の時期ということもあり、「あの世」に存在するといわれる地獄・極楽の世界をテーマに展示します。昔から人々は生前に悪いことをして亡くなると地獄に墜ち、そして徳を積んで亡くなると、仏さまがおられる極楽の世界に導かれるといわれています。苦しみの地獄と救いの極楽の世界をご覧ください。

令和6年7月20日(土)～10月14日(月・祝)

前期 7月20日(土)～9月1日(日)

後期 9月3日(火)～10月14日(月・祝)

会期中無休

同時開催企画展  
「怖い？知りたいたい？」  
「地獄・極楽の世界」



第44回大宝蔵展  
「高野山の名宝」  
(世界遺産登録20周年記念)



重文 地藏菩薩像 宝寿院【前期】



閻魔王像（十王図のうち） 成慶院



重文 阿弥陀浄土曼荼羅図 西禅院【前期】



重文 厨子入俱利伽羅龍劍 龍光院

### 展覧会予定

- 秋期企画展「高野山と世界遺産（予定）」  
10月19日(土)～令和7年1月13日(月・祝) 年末年始休館
- 冬期平常展「密教の美術（予定）」  
令和7年1月18日(土)～4月13日(日)

### 主な展小品

#### 彫刻

- 国宝 制多伽童子像（八大童子立像のうち） 金剛峯寺
- 国宝 矜羯羅童子像（八大童子立像のうち） 金剛峯寺
- 国宝 恵光童子像（八大童子立像のうち） 金剛峯寺
- 国宝 烏俱婆譏童子像（八大童子立像のうち） 金剛峯寺
- 重文 不動明王坐像（伽藍不動堂 旧在） 金剛峯寺

#### 絵画

- 重文 阿弥陀浄土曼荼羅図 西禅院【前期】
- 重文 地藏菩薩像 宝寿院【前期】
- 重文 都率浄土曼荼羅図 円通寺【後期】
- 重文 地藏菩薩曼荼羅図 円通寺
- 閻魔王像（十二天像のうち） 成慶院
- 十王図 成慶院
- 十一面観音菩薩像 宝亀院
- 阿弥陀聖衆来迎図（模写本） 有志八幡講

#### 書跡

- 国宝 紺紙金銀字一切経（中尊寺経） 金剛峯寺
- 重文 紺紙金字一切経（荒川経） 金剛峯寺
- 重文 十卷抄 【前期・後期展示替え】  
円通寺
- 重文 決定往生集 【前期・後期展示替え】  
宝寿院

#### 工芸

- 重文 厨子入俱利伽羅龍劍 龍光院
- 重文 銅五鈎鈴 正智院
- 秘記高野山三鈎鈴 宝寿院
- 仏説預修十王生七経 【前期・後期展示替え】  
宝寿院

※文化財の保存上、展示品が替わる場合があります。  
※期間中、一部展示替を行います。



収蔵品の紹介 116

地蔵菩薩曼荼羅図 円通寺 一幅

麻本著色 李氏朝鮮時代 縦79・0 cm 横92・5 cm

本図は、『還魂記』という文書の説話に基づいて作られた図とされています。説話の内容は、中国開元寺の僧道明が、地獄の十王の一人である閻魔王の裁きを受けることになりましたが、龍興寺の道明と間違っていたことがわかり、現世へと

戻されます。その際、獅子を連れた地蔵菩薩が現れたという話になります。よって、中央に地蔵菩薩像、前方左右に僧形の道明と閻魔王（無毒鬼王の可能性もあり）、周囲に十王と従者、童子、牛や馬や鬼の顔をした獄卒、後方には六人の菩薩が描

かれています。十王は、初七日、二七日、三七日、四七日、五七日、六七日、七七日（四十九日）、百箇日、一周忌、三回忌の計十回の節目の日に、それぞれ地獄で死者を裁く十人の冥府の王がいます。このうち閻魔王は、五七日つまり死後三十五日に裁く裁判官です。地蔵菩薩は、地獄に落ちた人々を救済する菩薩ですので、十王と合わせて信仰されるようになりました。

本図をみると、全体的に白、緑、朱、群青など原色を鮮やかに使用しています。日本では余り見られない色使いで、これは十三世紀後半、十四世紀前半、ちょうど朝鮮半島を支配していた高麗（九一八〜一三九二）時代の仏画の特徴です。さらに高麗時代には、衣の空白部分にこれでもかというくらい金泥の複雑な文様で埋め尽くされています。高麗の次の王朝、李氏朝鮮（一三九二〜一九一〇）時代の仏画では、原色による鮮やかさか、金泥による文様か、どちらか一方の表現が多くなります。本図では、原色の特徴はありますが、金泥の文様はわずかです。これらのことから、本図は李氏朝鮮時代、それも前半の作と考えられます。また、本図は麻布に描かれています。日本でよく見られるのは、絹に描かれる絹本や紙に描かれる紙本ですが、李氏朝鮮時代には、麻布に描かれる麻本が多く見られます。こうした麻本の仏画は、民衆階層の制作者が多いという説があるので、本図も王族などではなく、一般の民衆による製作だと推測できます。



上が麻本（地蔵菩薩曼荼羅図）、下が絹本（別の文化財）、麻本は目が粗い。

李氏朝鮮時代前半は、日本との通交も多く、文物のやりとりも豊富でした。そうしたなかで、本図は高野山に伝わったのかもしれない。

（研谷 昌志）

# カモシカとニホンジカ（個体数増加）

高野山寺領森林組合 西田 安則

最近、高野山の町中でカモシカが出没し観光客の撮影のモデルになっているのを何回もみかけました。高野山の町中のいろいろな場所に出没しています。恐らく雄の若い成獣だと思えます。また、夜になると



カモシカ

空き地などで数頭のシカが草を食んでいるのをよく見かけます。町中でもこれらの大型草食獣が確認されるのは、個体数が増えているからです。特にシカの増加は全国的な状況とも言われています。



ニホンジカ

さて、カモシカやシカ、特にシカが増えることによってどういう事が起こるのでしょうか？まだシカの頭数が少ない頃は、シカにとって美味しい植物だけを食べるので、シカの居ないときとあまり変わりません。冬から早春は一番餌の少ない時期なので食性が変わりますが、そのために木が枯れたり笹原が無くなったりはしません。やがて、個体数が増えてくると今まで食べていた植物は減少、または無くなってしまう。そうすると、今まで見向きもしなかった匂いのきつい植物や毒のある植物も食べるようになります。その頃には、皮を剥がれて枯れる木が現れたり、笹や、林床の草も食べられ、地肌が露出するようになり、腐葉土などの栄養分が流失し、森林が衰えていきます。また、多くの生物は森林や植物に依存しているため、それら

の棲息にも影響を与えてしまいます。何故シカがこのように増えてしまったのでしょうか？いくつか要因があると言われてはいますが、その要因は人間の活動が大きく影響しています。まず明治時代に天敵であるニホンオオカミを絶滅させ、シカの天敵が居なくなったのが一つ。そして、狩猟者の高齢化と減少が一つ。あと一つは、奥山の全面積伐採等がシカが増えた要因だといわれています。では、どうすればシカを減らすことができるか？それは、人間がオオカミとなり、シカの数を減らすことしか根本的な解決法は無いと思っています。確かにシカも森の仲間ですが、シカの増加によって同じ森の仲間の植物や、虫たちがどんどん減少していく現状を考えると、シカを捕獲し、減らすしかないのではないのでしょうか。

特集高野山

国登録有形民俗文化財 高野山奉納小型木製五輪塔及び関連資料の調査 (その二)

木箱

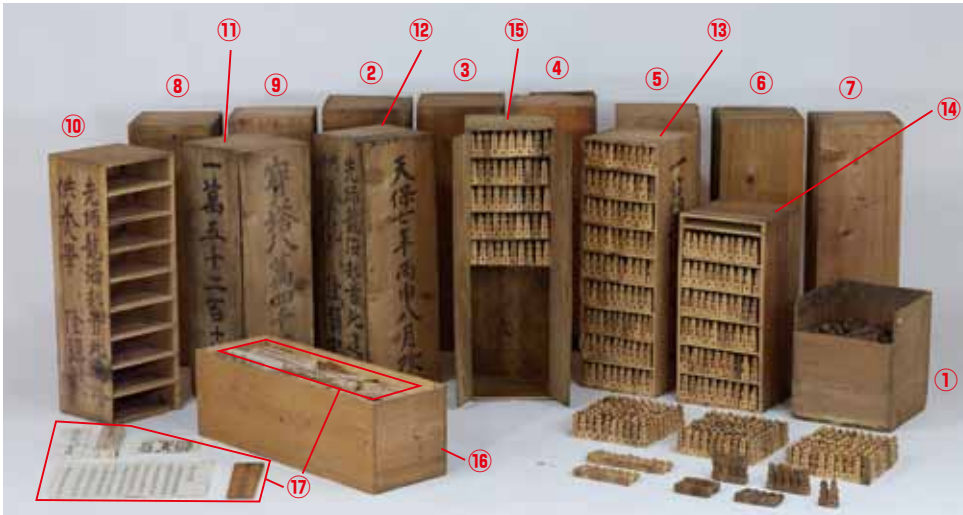


図1 国登録有形民俗文化財 高野山奉納小型木製五輪塔及び関連資料 円通寺 (図中の①～⑯は木箱の番号)

本資料である八萬四千寶塔こと小型木製五輪塔(以下「五輪塔」という) 12、156基が納められた木箱は、全16箱(図1、①～⑯)のうち、15箱(同①～⑯)に納められていました。残りの1箱(同⑰)は、出雲大社大弘大麻熊野本宮牛玉宝印など信仰関係資料が143点納められていましたが(同⑰)、この木箱については、まだ調査中なので、本稿では報告を控えます。本稿は、これらの木箱(同①～⑯)の構造や、納入された五輪塔の状態からその用途が推定でき、また木箱と五輪塔に記された墨書から、五輪塔が納入された時期やその造塔に関わった人物や背景を窺い知ることができそうですので、二回にわたってご紹介したいと思います。



図2 木箱① 底部付近に方形の穴が見られる



図3 木箱⑩

◎未成品が納入された木箱

木箱①は、高さ43・4cm×幅37・9cm×奥行37・4cmで、上部には蓋はなく、また、底部付近に用途不明の方形の穴が設けられたりしていることから(図2)、五輪塔を封入するために製作されたものではないようです。恐らく、端材で製作されたか、あるいは何らかの用途に使用されていた木箱が転用された可能性があります。

さらに、内部に納められた五輪塔358基には、前々号(霊宝館だより)145号)でご紹介した木工

◎1箱に約900基納めた木箱

木工工程、続いて四面への梵字の墨書が終わると、施主の名前や願意が記された五輪塔は木箱に納められ、蓋をして鉄釘で封入されました。木箱は、その規模から三種類に分類できます。一つは、木箱②から④

◎1箱に約900基納めた木箱

木工工程、続いて四面への梵字の墨書が終わると、施主の名前や願意が記された五輪塔は木箱に納められ、蓋をして鉄釘で封入されました。木箱は、その規模から三種類に分類できます。一つは、木箱②から④

で、その規模は、高さ98・0 cm、98・2 cm×横33・6、33・9 cm×奥行33・0、33・3 cmの一群です。内部に8枚の木板で間仕切って9段の棚を設け、各段に99、102基の五輪塔が納められていました。

もう一つは、木箱⑤から⑬で、全体的に先述の木箱②から④よりやや小さく、その規模は、高さ94・6、95・3 cm×横32・0、32・4 cm×奥行30・9、32・2 cmの一群です。内部には8枚の木板で間仕切って9段の棚を設け、各段に98、101基の五輪塔が納められていました(図3)。

最後は、木箱⑭で、その規模は高さ70・6 cm×幅33・8 cm×奥行33・1 cmを計りさらに小さく、明らかに木箱②から⑬までの規模とは異なります。

内部に6枚の木板で間仕切って6段の棚を設け、各段に99、100基の五輪塔が納められていました(図1)。

木箱②から⑬はおよそ900基の



図4 木箱②

五輪塔を納める規模と構造を持ちますが、木箱⑭は、木箱②、⑬に五輪塔を納めた後、残りの端数の五輪塔を封入するために製作された感があります。

◎観音開きの木箱

木箱⑮の規模は、高さ101・2 cm×横32・2 cm×奥行37・4 cmです。内部は9枚の木板で仕切られ、合計10段の収納スペースがあります。下方の段は間仕切りが破損しているため、各段に納められた五輪塔の点数は不明ですが、上の1段から6段までは合計394基納められていました。

この木箱には、観音開きの扉が設けられ、厨子となっており、木箱上面に「千人」と墨書されていることから、棚は合計10段で1段に100基納入し、1箱に1,000基の五輪塔を納めることを念頭に製作されたと考えられます(図4)。

これらの木箱②から⑮を概観すると、五輪塔を木箱に納める一連の納入工程が想起されます。五輪塔は木箱②に納められ、読経などの供養の後、木箱③から⑭に納め直され、蓋をし、釘を打ち付けて封入されたことが推測されます。(次回につづく)

(鳥羽 正剛)

◎新指定文化財の紹介

今号は令和六年三月四日に和歌山県指定文化財に指定された女人堂について紹介いたします。なお前号でご紹介した金輪塔に安置されていた、未指定彫刻 一字金輪仏頂尊坐像(鎌倉時代 金剛峯寺)を登録記念として霊宝館において展示いたします。



一字金輪仏頂尊坐像  
高野山霊宝館にて展示中

◎和歌山県指定文化財 女人堂



和歌山県指定文化財 女人堂

高野山の周囲の峯々を繋ぐ形で、女人道が巡っています。また、この女人道には高野山の周囲からいくつもの道が取り付き、高野山への出入り口となり、高野七口と呼ばれます。高野山は弘法大師空海により開創されて以来、女性は入山できませんでしたが、明治五年(一八七二)に女人禁制が解かれるまで、女性は高野七口に設けられた女人堂を巡礼や参籠し、周囲の峯々から高野山を参拝しました。不動坂口の女人堂は、江戸時代前期(一七世紀)の木造建築で、屋根は銅板葺です。現存する唯一の女人堂の建造物として大変貴重です。

# 高野山霊宝館からのお知らせ

## ◎ミュージアム法話 開催

「ミュージアム法話」(お坊さんによる法話と展示解説)を、左記の日程に実施しました。

5月18日(土)、6月1日(土)、7月6日(土)



ミュージアム法話開催風景 (高野山本山布教師 高橋秀輝師)

## 今後の開催予定

8月3日(土)／9月7日(土)  
10月5日(土)／11月9日(土)

いずれも13時より開催(約45分)。  
※参加費無料ですが、拝観料が必要となります。

## ◎世界遺産高野山登録20周年記念事業

### ●ミュージアムトーク

4月21日(日)、「ミュージアムトーク」(当館職員による展示解説)を実施しました。

## ●金剛峯寺探検ツアー

春期企画展「金剛峯寺」成立と宝物(令和6年4月20日(土)～7月15日(月・祝)開催)の関連イベントとして、5月21日(火)、6月21日(金)の両日、当館職員が普段は公開していない金剛峯寺境内にある真然堂、護摩堂、覚法法親王墓、金剛峯寺の前身寺院である興山寺境内の東照宮跡、また徳川家霊台の各所を巡り、解説を行いました。



金剛峯寺探検ツアー開催風景 (5月21日)

## ●夏休み特別イベント「親子で発見! 高野山こころの探求」開催

僧侶の解説で、高野山内を親子でご案内します。

日時 令和6年7月27日(土)、28日(日)  
10:00～15:00(受付9:40)

※同内容で2日間開催  
内容 子ども向けの法話、壇上伽藍見学、高野山霊宝館見学など  
会場 壇上伽藍・高野山霊宝館など

対象・定員 小学校3年生～6年生  
ぐらゐの児童と保護者。40名限定。

お問い合わせ・申込先

URL : <https://dmckoyasan.urkt.in/ja/direct/offices/1120/courses>

## ○貸出情報

●東京国立博物館

特別展「神護寺―空海と真言密教のはじまり」  
令和6年7月17日(水)～9月8日(日)

●和歌山県立博物館

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展  
「聖地巡礼―熊野と高野―」  
令和6年8月3日(土)～9月29日(日)

●重文 大日如来像(勸学院旧在)

●重文 丹生明神・狩場明神像

●重文 薄紅地薔薇反橋文様括袴、水干

すべて金剛峯寺

## ●龍谷ミュージアム

秋季特別展「眷属(仮)」  
令和6年9月21日(土)～11月24日(日)

●国宝附属 指徳童子像・阿耨達童子像(八大童子立像のうち)

## ●中之島香雪美術館

特別展「法華経絵巻と千年の祈り」  
令和6年10月5日(土)～11月24日(日)

●重文 法華一品経 金剛峯寺

## 友の会 会員募集

### 〈年会費〉

一般会員(個人) 3,000円

賛助会員(法人) 30,000円

キャッシュレス決済で手続きが可能になりました。入会希望の方は下記から申し込みただくか、霊宝館までお問い合わせください。

会費ペイ会員登録用URL・QRコード

[https://www.kaihipay.jp/forms?form\\_code=9807367488232707](https://www.kaihipay.jp/forms?form_code=9807367488232707)



## ◎空海・密教を自宅で学べる『高野山大学 社会人向けコース』



高野山大学では、社会人の皆様の人生のさらなる学びを応援するため、オンラインで受講可能な密教文化コースを開設しております。空海、マンダラ、お遍路、歴史など幅広い学びを、続けやすい学費にてご案内しております。詳細は大学HP、またはお電話にてご相談ください。



大学HP QRコード